

全国大学史資料協議会
西日本部会 25周年記念誌

25th Anniversary

全国大学史資料協議会 西日本部会 25周年記念誌

25th Anniversary



刊行にあたって

大学史資料協議会西日本部会は、1990年（平成2年）5月9日、18校26名が同志社大学に集まり、前身となる西日本大学史担当者会として発足したことに始まります。現在の東日本部会に遅れること2年のことでした。そして、1996年10月、改称していた東日本大学史連絡協議会と合同し、全国大学史資料協議会を設立し、同会の西日本部会となりました。

発足から、25年、会員校等は、徐々に増え、38機関、1名の海外特別会員を含む個人会員12名となり今日に至っています。

この間、大学は、少子化による大競争時代を迎えました。大学史編纂事業の副産物でもあった大学史（自校史）の講義は、アイデンティティを醸成する科目として多くの大学で開設されるようになりました。また、大学史編纂事業により収集した史資料を保存・公開する機関の設立が重要な課題でしたが、会員各位のご努力により、大学アーカイブズが各校で設立されるに至っています。そして、展示等を通じて大学広報の一翼を担い、大学の社会貢献に寄与するまでになっています。さらに、平成21年、公文書等の管理に関する法律が制定、平成23年に施行されたことで、公文書管理を行う大学アーカイブズが国立大学で設置されるようになり、私立大学でも校内文書の管理が課題となりつつあります。

しかし、公文書管理法に基づいて設立された国立大学のアーカイブズは、全体の一割程度であり、グローバル化など変転する高等教育政策に対応するので精一杯の大学にとって文書管理は二義的な問題にとどまっているのが実情です。

大学史が大学検証の基準の一つとなり、大学アーカイブズが、大学を表象する知の器となるまでには、未だ多くの険しい道が続いているように思います。留学生がキャンパス内を闊歩する今日、西日本部会としても国際的な展開も必要となっています。大学アーカイブズが、本来の存在意義を広く認知されるまでには、未だ克服すべき課題がたくさんあります。

そのようななか、本誌を刊行し、これまでの労苦を共有するとともに、西日本部会の諸活動を検証することは有意義なことと考えています。西日本部会の足跡は、各機関が互いに学び、よりよい発展を願いつつ問題点を克服してきた歴史であり、改めて、新たな一步を踏み出すうえで、多くの勇気と知恵を与えていただけるものであると思います。そして、本誌を明らかにすることで、さらに多くの方々から、ご指導とご協力を得ることができればと祈念しております。

全国大学史資料協議会会長・西日本部会長

小 池 聖 一

全国大学史資料協議会 西日本部会 25周年記念誌

目 次

口絵

刊行にあたって

I	全国大学史資料協議会西日本部会の歩み	1
II	西日本部会創立25周年記念座談会	9
III	思い出、提言、雑感—西日本部会について思うこと	
	西日本部会会員の思い出 機関会員	33
	個人会員	56
	東日本部会会員から寄せられた思い出	63
IV	資料	
	西日本部会会員校要覧	71
	西日本部会幹事会一覧	107
	活動年表	108
	全国大学史資料協議会規約	145
	全国大学史資料協議会西日本部会規約	146
	西日本部会会員名簿	148

編集後記